

長野県飯田市

広報いいだ

2016 (平成28年)

11.1

No.1045 ● 毎月1日・15日発行



[特集]

産業振興の新たな拠点整備

柳田國男館の秋

(片桐勝壽さん撮影)

美術博物館の奥にある柳田國男館も

静かに秋が深まっていました

撮影場所:柳田國男館(追手町)

多様な地域産業を支援する産業振興の中核施設 南信州・飯田産業センター

南信州・飯田産業センターは、昭和58年に国、県、地元企業が出資して設立された助飯伊地域地場産業振興センターとしてスタートしました。当初の目的は地場産品の情報発信・展示・販売でした。

その後、バブル崩壊、リーマン・ショック、東日本大震災、グローバル化の進展、海外シフトによる国内空洞化などの社会情勢の変化や、南信州定住自立圏形成協定の締結、三遠南信地域広域基本計画の策定、公益法人の見直しといった地域を取り巻く環境の変化により、地場産業も含め、さら

に広く、産業振興の中核施設とするため、平成24年助飯伊地域地場産業振興センターから南信州・飯田産業センターに組織名称を変更しました。



水引(市松チヨーカー)
design: naoko kato © nishikuroshi nakashima

全国シェア約70%の飯田水引



全国シェア約60%の凍豆腐



全国シェア約40%の半生菓子

新産業へのチャレンジ

南信州・飯田産業センターでは、

- ①新産業創出支援、②人材育成支援、③地場産業高度化、④販路開拓支援の4本の事業を柱として活動を行っています。また、地域企業の研究試験機関として、工業技術センター、飯田EMCセンターを運営し、地域経済に大きなウエイトを占めている精密・電子・光学関係製品の素材分析、精密測定、電磁波試験を行っています。

今後は、既存の地域産業の振興は当然ですが、時代環境に合わせ新産業へのチャレンジも必要になります。



地元企業が開発した「LED防犯灯」

南信州・飯田産業センター機能が拡充が期待されています。



地元企業が開発した
マイクロ水力発電装置「すいじん」

「航空宇宙産業」「メディカルバイオ」「食品産業」「環境産業」などを推進するため、南信州・飯田産業センターの役割はさらに大きくなります。研究開発機能や公的試験場機能、起業、第2創業の支援、地域外事業者の誘導などに活用するインキュベーター室の設置、地域産業の魅力発信、産業支援情報の提供など、



飯田メディカルバイオクラスターシンポジウム
(食品の機能性に着目した食品開発研究)